

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームめだかの学校**

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
		ユニット名(Ⅰ)	ユニット名(Ⅱ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で変わりなく生活し暮らしていく為に「家庭的な雰囲気の中で生活が出来る事」を独自の理念とし地域と支えあい知識や技術を学び日々利用者に接するように取り組んでいて職員と共に支えあい技術を学び日々利用者に接し取り組んでいる。	地域の中で変わりなく生活し暮らしていく為に「家庭的な雰囲気の中で生活が出来る事」を独自の理念とし地域と支えあい知識や技術を学び日々利用者に接するように取り組んでいて職員と共に支えあい技術を学び日々利用者に接し取り組んでいる。	独自の理念「家庭的な雰囲気の中で生活ができること」「地域と交流を持ち役割や課題を地域に発信し支え合う町づくりに参加」を居間正面に提示し、毎月の職員会議の中で周知徹底している。職員は毎日「今日一日楽しかったか？個別対応ができたか？」を振り返り利用者との良い関係作りに心掛けている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	下新町区活動に賛助金を支払い区員として積極的なかわりを持てる地域と交流がある。地域ボランティアから習字教室の指導があり、御屋敷地区ふる里祭り文化祭に作品を出展したり、地域の敬老会に招待を受けている。	地域とは下新町区活動に賛助し区員として積極的なかわりを持てる地域と交流あり近所の後屋敷保育園とも交流がある。散歩時はゴミ拾い等で地域の中の役割を担っている。地域ボランティアからの絵手紙・習字教室の指導がある。御屋敷地区ふる里祭りに作品を出展した	地域の自治会に加入し神社の大祭等に参加している。地域の文化祭には、一年がかりで制作した巻紙アートや習字・編み物・絵手紙・雑巾アートなどを出展している。地域の祭りや敬老会に招待され楽しく参加している。また、小学生や中学生の訪問等もあり地域の方とは日常的に交流している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	山梨市より「ほっとスペース事業」を委託されている事で月1回「街の駅・やまなし」で地域の家族はもちろん認知症である本人から相談を受けている。峡東地区認知症の人と家族の会とも交流あり症状による対応方法や予防に向けての支援をしている。ホームの利用者さんも参加し日常の様子を伝えてもらった。	「ほっとスペース事業」を開設している事で月1回地域の家族はもちろん認知症である本人が相談の場所としている。峡東地区認知症の人と家族の会とも交流あり症状による対応方法や予防に向けての支援をしている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	後屋敷地区8地区の区長・民生委員・家族を会議構成員とし2ヶ月に1度交代で参加してもらっている。19:00～20:00とし利用者さんも10人ほど参加し日常をありのままの取り組みを発表出来る場所となっていて話し合いにも参加している。	運営推進会議の場として主にⅡの利用者さんが参加している。個性豊かな人達は思い思いに主張し居心地の有無や職員の対応についても感想を言う。	毎月、奇数月の夕食後、利用者10名程と区長・市の職員・民生委員・家族・職員の計20名程で開催している。利用者の思い思いの発言と生き生きとした様子に出席者は驚いている。事業所内で開催する事で利用者への理解を深めてもらい「ホットスペース事業」に繋がった。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	抱えている問題は日頃から積極的に連絡を取っている。2年に1度交代となる区長が運営推進会議員の為、市町村関係者に協力をいただいている。包括支援センターとは協力関係を築きサービスの取り組みから実態を共有し「認知症サポーター研修」の体験学習場所としている。	運営推進会議に市町村担当者が参加する事で利用者さんの生の声や家族の代表からもサービスの取り組みを発言してもらっている。	めだか便りを毎月利用者2名と一緒に市に届けている。入所間もない利用者と家族の関係の情報収集や困りごと等相談したり、ホットスペース事業の委託を受けている。また、認知症サポーター研修・小・中学生の体験学習や障害を持つ高校生で介護に興味のある生徒を2週間預かる等して市との協力関係を築いている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修等で具体的な行為は理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいるが身体的・精神的な問題は家族や主治医と相談している。玄関や勝手口の施錠は、早朝・夕方以外は施錠しないように取り組んでいる。日中はⅠとⅡを行ったり来たりしている	内部研修等で具体的な行為は理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいるが身体的・精神的な問題は家族や主治医と相談している。帰宅願望の激しい人への対応は玄関や勝手口の施錠で、早朝・夕方以外は施錠しないように取り組んでいる。	月1回開催する職員会議の内部研修で身体拘束(スピーチロック・センサー)は使用しない・施錠は朝・夕方以外にはしない等)についての共通理解が出来ている。利用者は、日中はユニット間を自由に歩き来しており、職員は、利用者の自由な行動を見守っているのであえてスピーチロックをする必要がない環境にある。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や職員会議等で学ぶ機会を多く持ちスピーチロック等では防止の徹底を図り虐待が見逃ごされないように職員同士が声を掛け合っている。	内部研修や職員会議等で学ぶ機会を多く持ちスピーチロック等では防止の徹底を図り虐待が見逃ごされないように職員同士が声を掛け合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	研修に参加し学ぶ機会を得ている事から金銭の管理能力が低下し対応が必要と思われる人が活用できるように関係者と話し合いを重ね活用できるように支援し成年後見制度を利用していた。これからも活用していきたい。	研修に参加し学ぶ機会を得ている事から金銭の管理能力が低下し対応が必要と思われる人が活用できるように関係者と話し合いを重ね活用できるように支援し成年後見制度を利用している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくりと丁寧に説明し家族からの不安や疑問点を聞き納得を得て改定の際は書類に確認後サインをもらっている。また解約や状態の変化から退去となる場合も丁寧に説明し理解を得ている。	ゆっくりと丁寧に説明し家族からの不安や疑問点を聞き納得を得て改定の際は書類に確認後サインをもらっている。また解約や状態の変化から退去となる場合も丁寧に説明し理解を得ている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月ホームだより「めだか便り」を発行し近況を報告して家族参加の行事の時に率直な意見をいただいている。運営に反映させる為に運営推進会議に家族代表として参加してもらい外部者へ表せる機会を設けている。家族が訪問時に悩みや意見を聞き管理者へ伝え反映をしている	毎月ホームだより「めだか便り」を発行し近況を報告して家族参加の行事の時(特に宿泊)にも率直な意見を見たいしている。運営に反映させる為に運営推進会議に家族代表として参加してもらい外部者へ表せる機会を設けている。家族が訪問時に悩みや意見を聞き管理者へ伝え反映をしている	家族は、面会が多く時間に関係なく訪れている。また、毎月の支払いは直接事業所に持参してもらい、お互いの困りごと等気軽に話し合って支援に結びつけている。1日行業としてのいちご・さくらんぼ狩りやクリスマス会、納涼会等の行事にも参加を呼びかけ、家族の意見を聞く機会を多く持っている。

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームめだかの学校

自己評価	外部評価	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(Ⅰ)	ユニット名(Ⅱ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との意見交換は職員会議に意見や提案を聞く代表者の訪問時にも話し合い話し合う機会を設けている。納涼会・新年会等で個別の意見を聞いてもらえる。	職員との意見交換は職員会議に意見や提案を聞く代表者の訪問時にも話し合い話し合う機会を設けている。特に障の建物を建築の際は、設計から意見を取り上げてもらい希望を取り入れてもらった。外気浴を受けながらの食事場所を提案し理解してもらえた	毎月1回の職員会議で職員の意見や提案を聞き、管理者が法人に挙げている。勤務体制の事やソファから椅子に変更、居間を置にしたり、テラスで食事が出るようにテーブルを購入したり、トイレや台所の床の貼り換え等、職員が働きやすく利用者が生活しやすい環境となるように多くの要望が出て速やかな改善がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	機会を設け代表者は職員の努力や実績を把握して職員の評価を行ない環境・条件を聞き向上心をもって働けるよう協力してもらっている。職員不足の対応として勤務時間短縮や工夫の条件を理解してもらい整備している。	機会を設け代表者は職員の努力や実績を把握して職員の評価を行ない環境・条件を聞き向上心をもって働けるよう協力してもらっている。子育て中の職員に対して勤務時間短縮や工夫の条件を理解してもらい整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	山梨県グループホーム協会の研修や法人内外の研修を受ける機会は確保出来ていて職員はそれぞれ努力している。	山梨県グループホーム協会の研修や法人内外の研修を受ける機会は確保出来ていて職員はそれぞれ努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のG. Hが「ホットスペース事業」を委託されていてそれぞれの意見交換が出来る。見学・交流する機会があり相互質の向上に向けて取り組んでいる。	他の事業所を見学・交流する機会があり相互訪問の活動や勉強会を通して質の向上に向けて取り組んでいる。市内の「地域ささえあい虹の会」と交流があり活動を通じて質の向上に向けて取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の置かれている状況を把握する為に何度か本人と家族に訪問してもらっている。関係を深められる様 困っている事や不安な思いに耳を傾けながら互いに支えあえる人間関係を作る努力をしている。その際入浴や昼食に誘い本人の力を確認している。	本人の置かれている状況を把握する為に何度か本人と家族に訪問してもらい関係を深める所から困っている事や不安な思いに耳を傾け支えあえる人間関係を作る努力をしている。その際入浴や昼食に誘い本人の力を確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の状況を把握する為に何度か訪問してもらい困っている事、不安な事の要望に耳を傾けながら安心して生活出来るよう関係づくりに努力している。本人の情報(生活史・習慣・好きな物)や家族の情報を聞き取り信頼関係づくりに努めている。	本人の状況を把握する為に何度か訪問してもらい困っている事、不安な事の要望に耳を傾けながら安心して生活出来るよう関係づくりに努力している。本人の情報(生活史・習慣・好きな物)や家族の情報を聞き取り信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族から・本人から わかる事・出来る事を知り必要としている支援を探っていく。その時その場面で必要とする支援は、半日程度の体験サービス利用から入所へとつなげている。	その時本人がわかる事・出来る事を見極め必要としている支援を探っていく。その時その場面で必要とする支援は、半日程度の体験サービス利用から入所へとつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自宅での生活の延長と思えるホームでありたいと日々支援している。それぞれ役割を持ち得意としている事を引き出す工夫をしている。漬け物・ほうとう作り・野菜作り・縫物・編み物等を毎日の生活習慣になっている。	自宅での生活の延長と思えるホームでありたいと日々思い支援している。それぞれ役割を持ち得意としている事を引き出す工夫をしている。白板に一日の役割を書き担当者と共に生活支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の際 書ける人は本人から家族へお誘いの手紙を書いてもらっている。月1回ほどの自宅への外泊を楽しみにしている利用者もいて本人の喜怒哀楽を共感できる関係を築く為にその時の様子を家族から聞き参考にしていく。暑中見舞いや年賀状を書ける人は本人から家族へ書く。	ホームの行事には 必ず家族が参加してくれる。その際家族から季節・盆正月の自宅での習慣等を聞き、出来るだけ自宅へ行き本人しか出来ない事への支援を促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思いに寄り添い電話や手紙を利用している。居室へは行事の写真や家族の写真を貼っている。また日々の食材の買い物は地域の馴染みの店に良く行き店員さんからの声かけが多く関係が途切れないように支援している。面会の帰りは生活ハビリで仕上げた雑巾を土産・お礼に手渡している。	本人の思いに寄り添い電話や手紙を利用して支えている。居室へは行事の写真や家族の写真を貼っている。地域の老人会の会合や同級会へも参加していて月二回ほど友達遊びに来てくれる。	馴染みの人の面会が多く気軽に話が出来たり、電話や手紙・絵手紙等で関係が継続出来ている。行事の写真を居室や居間・廊下に貼り家族との関係が継続出来る工夫をしている。馴染みのころ柿づくり・漬け物・餅つきや生活リハビリとして雑巾縫いを行っている。また、家族と一緒に墓参り・同級会に行く等今までの関係が途切れない支援に努めている。	

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホームめだかの学校	【セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。】	
自己評価	外部評価	自己評価(実践状況)		外部評価	
		ユニット名(Ⅰ)	ユニット名(Ⅱ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が自己紹介をしたり年齢に沿った話題でも共有し興味や行動を支えあえる支援をしている。一人ひとりが孤立せず得意としている事が十分発揮できる事を生活リハビリの中で支援している。Ⅰ・Ⅱの建物をいつも行き来して仲間の関係が深まり互いに支えあっている。	年齢に沿った話題で共有し興味や行動を支えあえる支援をしている孤立せず得意としている事が十分発揮できる事を生活リハビリの中で支援している。(野菜作り・料理・洗濯物等) Ⅰ・Ⅱの利用者さんがいつも両方を行き来して仲間の関係が深まり互いに支えあっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても関係は変わらず家族とも必要に応じて相談を受け支えたりホームへも遊びに来てもらっている。退去後10年経過しても家族が訪問してくれる。	サービス利用が終了しても関係は変わらず他施設へ移られた方の所へ面会に行っている。退去10年経過しても家族が訪問されている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や表情を観察し変化や気付きを得よう心がけている。土日の家族訪問はなるべくホーム内での会話でなく外に出て気分転換を勧めている。会話の理解が難しい人とはくさや表情から本人の訴えを察するように指導し、自宅周辺へのドライブで自宅にも訪問している。	言葉や表情を観察し変化や気付きを得よう心がけている。土日の家族訪問はなるべくホーム内での会話でなく外に出て気分転換を勧めている。会話の理解が難しい人とはくさや表情から本人の訴えを察するように指導し、自宅周辺へのドライブで自宅にも訪問している。	毎朝の朝礼で、利用者が自己表現する機会を意識的に設けている。日常的な会話からも本人の要望や希望を聞き必要時は家族の協力を得ている。表現の難しい方は、日頃の関わりから意向や体調の変化に気づけるような掛け支援に結び付けている。事業所の畑の種まきや収穫なども利用者の意向であり楽しみに繋がっている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	支援する為の道具として家族・友人の訪問時に生活歴や入所前の生活環境等を聞き取るようにしてアセスメントシートに記入し、これまでの経過を聞き取り把握して支援へとつなげている。	その人を支援する為の道具として本人や家族・友人が訪問時間聞き取るようにしている。訪問時の親せきや家族からこれまでの経過を聞き取り把握して支援へとつなげている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴から一人ひとりの過ごし方を知り、その人らしく生活してもらう為に「出来る事・出来ない事」「解かる事・解らない事」の生活リズムを把握する為の努力をしている。ケース記録に一日の詳しい様子を記入して訪問時に確認してもらい家族は赤のボールペンで言葉を添えてサインをいただいている。	入所時間き得た生活歴から一人ひとりの過ごし方を知り、その人らしく生活してもらう為に「出来る事・出来ない事」「解かる事・解らない事」の生活リズムを把握する為の努力をしている。ケース記録に一日の詳しい様子を記入している。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その時の問題点を必要な関係者・職員とも一緒に話し合い計画を立て モニタリングし ケア会議・カンファレンスに反映している。意見交換し作成した介護計画の期間は6か月で評価の期間は3か月としている。	家族とは訪問時その時の問題点を伝え共有している。職員とも一緒に話し合いアイデアをケア会議・カンファレンスに反映している。意見交換し作成した介護計画の期間は6か月で評価の期間は3か月としている。記録	入居時は、利用者の状況や本人・家族の意向の入った暫定プランを本人・家族・職員で共有している。日々の支援は、ケース記録に記入(日中黒・夜間常青・家族赤)している。それをもとにして3か月毎にケア会議で話し合い、大きな状態変化がない時は6ヶ月で見直している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子がわかるようにその時の場面を本人の言葉を加え日中は黒、夜は青と色を変え工夫して記入している。職員と情報は、介護の申し送りノートを共有しケア会議で意見をまとめ計画・評価に役立てている。	一日の様子がわかるようにその時の場面を本人の言葉を加え日中は黒、夜は青と色を変え工夫して記入している。職員と情報は、介護の申し送りノートを共有しケア会議で意見をまとめ計画・評価に役立てている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域包括支援センターや地域の事業所と連絡が取れている。希望があれば訪問リハビリや皮膚科医師による往診も対応している。本人や家族の要求があれば(お盆やお正月・葬儀・食事等)時間にとられず柔軟なサービスや支援をしている。	個別の支援として訪問リハビリを希望される人がいた。ⅠとⅡの建物を行き来して柔軟な支援と利用者同士の関係性の中で居室移動もしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で暮らし続ける支援として家族のみでなく地域住民やボランティアの力を借りている。また地域の美容室へ引き続き行かれている人もいる。買い物も馴染みの店に良く行く。地域コミュニティの「街の駅・やまなし」で「ホットスペース事業」を毎月第二土曜日に開催している。	地域で暮らし続ける支援として家族のみでなく地域住民やボランティアの力を借りている。また地域の美容室へ引き続き行かれている人や買い物も馴染みの店に良く行く。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームめだかの学校

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
		ユニット名(Ⅰ)	ユニット名(Ⅱ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は家族同伴が望ましくバイタル表等の特徴や様子の記録を手渡しているが無理な場合は職員が対応している。時には往診も対応してもらい夜間の緊急時も適切な対応と関係医療が受けられるような関係を築いている。	病状によりかかりつけ医から適切な対応や指示を頂いていて職員にとって安心につながる協力を得ている。	全員かかりつけ医である。家族の受診対応時は個人記録帳を渡して状況を知らせ、結果はケース記録や申し送り帳に記録し職員全員で把握している。受診困難場合や緊急時は看護師が医師と連携を取って対応している。歯科資格の職員がいて口腔ケアが行き届いている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は申し送りノート・各自のバイタル表に食事・水分摂取量・排泄の有無を記入し看護職へ身体的変化を伝え健康管理や医療に関する相談をし対応している。日々の関わりからスムーズに受診の介助も支援している。	申し送りノートを活用し介護職は看護職へ排泄パターンから身体的変化を伝え健康管理や医療に関する相談をし対応している。日々の関わりからスムーズに受診の介助も支援している。		
32	○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には家族の了解を得て医療機関に介護・看護サマリーの情報を提供し、認知症状が進行しない為の工夫として職員の面会を多く支援している。入院時は早期退院出来るよう病院関係者と相談を密にしている。	入院時には家族の了解を得て医療機関に介護・看護サマリーの情報を提供し、認知症状が進行しない為の工夫として職員の面会を多く支援している。入院時は早期退院出来るよう病院関係者と相談を密にした。		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期についての話をしている。重度化しても対応が出来る事と看取りケアのマニュアルがあり経験している事を説明している。本人の気持ちを大切に安心して終末期が送れるように早い段階から話し合いを行ない地域の関係者やかかりつけ医とも相談をしたり職員と利用者が一緒に出来る事を十分説明し方針を共有している。看取りを4人支援した。	重度化してもバリアフリー対応のめだかⅡで生活できる事や安心して終末期が送れる様早い段階から家族と話し合いを行い事業所で出来る事を十分に説明した。いつでも家族が付き添い休める場所も提供した。	入居時に、看取り対応について事業所の指針を説明している。今までに4名の看取り経験がある。看取りが近づく職員に研修を行い、安心して対応ができる体制を整えている。終末期は家族が泊まれる部屋や食事の提供も行っている。最後は、職員・利用者全員でお見送りをし、その後、家族を交えて職員で看取りを終えて改めて自分たちの支援はどうだったのかを振り返る機会を設けて次の支援に繋げている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを設置しており、緊急時の通報訓練は行っている。看護職から内部研修で応急手当や初期対応の指導を受けている。定期的に受け対応していることは意識喪失とバイタル異常から緊急性を確認してかかりつけ医に連絡後救急車を要請している。	マニュアルを設置しており、緊急時の通報訓練は毎月行っている。看護職から内部研修で応急手当や初期対応の指導を受けている。定期的に受け対応していることは意識喪失とバイタル異常から緊急性を確認してかかりつけ医に連絡後救急車を要請している。		
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した自衛消防訓練・通報・避難誘導を消防器具点検時に業者の指導で利用者と一緒にこなしている。特に「玄関へ逃げて」の声で玄関に集まる習慣が出来てきた。下駄箱の中に防災グッズを入れている。運営推進会議等で地域の協力体制を築いている。	夜間を想定した自衛消防訓練を職員が交代で通報・避難誘導を利用者と一緒に行なっている。特に「玄関へ逃げて」の声で玄関に集まる習慣が出来てきた。下駄箱の中に防災グッズを入れている。運営推進会議等で地域の協力体制を築いている。	年2回避難訓練を実施している。運営推進会議で地域の方達と、非常時は利用者が駐車場に避難している事を伝え協力を依頼した。日頃の訓練は、内線での知らせ・消防への通報・出火場所から近い方からの誘導等を行っている。消防団の出初式では事業所への訪問もある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	普段からさりげない馴染みの言葉かけ(甲州弁)は家族から理解されている。個人の希望を叶え居室で過ごす自由や個々のプライド・誇りは、大切に对应をしている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応はしているが普段からさりげない馴染みの言葉かけ(甲州弁)は家族から理解されている。個人の希望を叶え居室で過ごす自由も理解し、プライドを保つ言葉かけをしている。	言葉かけには配慮し、利用者が傷つかない様な心配りをしている。トイレや入浴の支援は、周りの方からない様なさりげない誘導を行なっている。同性介護やカーテンで仕切る等の工夫をしている。書類は、きちんと整理され、個人情報の研修も実施している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今何をしたいのか傍らに寄り添い得意としている台所仕事やモップでの床拭き・洗濯物の干し・たむ事や買い物、そして家族に会いたい希望を電話で伝え面会に来てもらったり外出している。新聞記事の感想日記は日々の習慣は相談している。	常に本人が今何をしたいのか傍らに寄り添い得意としている台所仕事や雑巾での床拭き・洗濯物の干しとたみと買い物や家族に会いに行ったり日記や絵を書くと言う自己決定をできるように働きかけている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝礼時に相談するがその場の雰囲気や変更したり買い物や散歩に寄り添い支援している。新聞購読の時間帯にも今日は何をして過ごしたいか希望を聞き参考にしている。特に庭での手作りランチは、喜び楽しみにして時折家族と一緒に食べる時もある。	一日の過ごし方は朝礼時に皆で相談するがその時その場の雰囲気や変更し本人のペースに合わせ買い物や散歩に寄り添い希望にそって支援している。新聞購読の時間帯にも今日は何をして過ごしたいか希望を聞き参考にしている。特に庭での手作りランチは、喜び楽しみにして時折家族と一緒に食べる時もある。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームめだかの学校

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己評価	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価		
			ユニット名(Ⅰ)	ユニット名(Ⅱ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活歴から本人が好む気持ちに沿った身だしなみやおしゃれに心掛けている。特に外出時(同級会への参加)には化粧の支援をしている。行きつけの美容院に家族が同行してくれている。	生活歴から本人が好む気持ちに沿った身だしなみやおしゃれに心掛けている。特に外出時には化粧の支援をしてその人らしさを引き出している。行きつけの美容院に家族が同行してくれている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生活リハビリとして好みや力を活かし、職員も一緒に準備や食事・片付けをしている。食材を用意して献立を決め季節の行事を使い楽しんでいる。(ちらしずし・ほうとう・すいとん等)またテラスでの食事は、いつもⅠとⅡが合流でお弁当を作り景色や風・花を觀賞しながら楽しんでいる。	生活リハビリが中心で好みや力を活かし、職員も一緒に準備や食事・片付けをしている。新聞購読後食材を目の前に置き献立を決め季節の行事は、旬の食材を使い楽しみに使用している。(巻きずし・煮豆・ほうとう・すいとん等)またテラスでの食事は、いつもⅠとⅡが合流でお弁当を作り景色や風・花を觀賞しながら楽しんでいる。	献立は、手元にある食材で利用者と一緒に決め、できるだけ希望に添った内容にしている。買い物・調理・準備・食器拭き・片付け等職員と一緒にこなす。一人ひとりの持てる力が発揮出来て活き活きと動いている。年中行事には松花堂弁当の容器等を使用し楽しんでいる。天気の良い日は、テラスで皆と一緒に食事を食べ、楽しい交流が出来る。誕生日にはお赤飯を皆で作っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取・水分摂取は毎日ケースに記録し一人ひとりの状態や力は把握している。栄養バランスを考えた献立は食物繊維を多く取り入れて和食中心の献立で低栄養状態にならないように心掛けている。	食事摂取・水分摂取は毎日ケースに記録し一人ひとりの状態や力は把握している。栄養バランスを考えた献立は食物繊維を多く取り入れて和食中心の献立で低栄養状態にならないように心掛けている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師がいることで口腔ケアは任せていたり指導を受けている。特に義歯の洗浄は洗浄剤を夜間時使用している。義歯使用者には寄り添い自身で外したり・舌苔ブラシで洗う支援を心がけて後で職員が洗浄している。	歯科医師がいることで口腔ケアは任せていたり指導を受けている。特に義歯の洗浄は洗浄剤を夜間時使用している。義歯使用者には寄り添い自身で外したり洗う支援を心がけて後で職員が洗浄している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣をいかすために時間でトイレに誘導して送りノードに各自のオムツ等の使用枚数に時間を記入している。見守りながら自立に向けた支援もして排泄の誘導はさりげなく誘うように心掛けている。	一人ひとりの排泄パターンや習慣をいかすために時間でトイレに誘導して送りノードに各自のオムツ等の使用枚数に時間を記入している。見守りながら自立に向けた支援もして布パンツ使用2名の排泄の誘導はさりげなく誘うように心掛けている。	昼夜オムツ使用者はいない。オムツを減らすことを目標にし、送りノードに一人ひとりの排泄パターンを記入し、周りに気づかれないさりげない誘導を行なっている。16名中半数が自力でトイレに行く。内2名は布パンツである。身体状況によりポータブルトイレや夜間オムツを使用する事もあるが自立に向けた支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を取り入れ調理したり・水分摂取に注意し散歩や体操をして身体を動かす働き掛けをしている。便秘の問題を抱えている人は、かかりつけ医の指示を得ている。	食物繊維の多い食材を取り入れ調理したり散歩や体操をして身体を動かす働き掛けをしている。便秘の問題を抱えている人は生活リズムシートを使用し、かかりつけ医の協力を得ている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別に合った入浴を理想とし日中の午前と週2～3回の入浴としている。常に清潔保持に努めているが入浴を拒否する人が多くなり拒む人への言葉かけには個々に添った支援をして時間や日を変更している。仲間同士での入浴を楽しんでいる。	個別に合った入浴を理想とし日中の午前・午後と週2～3回の入浴としている。常に清潔保持に努めているが入浴を拒否する人が多くなり拒む人への言葉かけには個々に添った支援をして時間や日を変更している。仲間同士での入浴を楽しんでいる。	日曜以外はいつでも入浴できる。脱衣室は、一人ひとりの下着や靴下が入っているタンスがあり、入浴時の着替えが自由に行える様に工夫してある。入浴を嫌がる時は無理強いをせず、何を嫌がっているかを把握し、納得がいくような声掛けをしている。季節の菖蒲湯・柚子湯等で利用者に喜んでもらえる工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別に習慣を聞き、その時の状況に応じて休息している。日中はなるべくリハビリ体操等で身体を動かして日光浴や周辺を散歩している。高齢者が多いため食後は休息時間を取っている。	個別に合った習慣を知り、その時の状況に応じて休息している。日中はなるべくリハビリ体操等で身体を動かして日光浴や周辺を散歩している。高齢者が多いため食後は休息時間を取っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医・看護職員から服薬について指導を受け、また内部研修で理解に努めている。症状の変化はいつも詳細な記入をケース記録に記している。	かかりつけ医・看護職員から服薬について指導を受け、また内部研修で理解に努めている。症状の変化はいつも詳細な記入をケース記録に記している。			

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームめだかの学校

自己評価	外部評価	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(Ⅰ)	ユニット名(Ⅱ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除時・床拭き・モップ掛け・洗濯物干しとたみみの支援は張り合いで畑での野菜作りは喜びと言える。嗜好品は干し柿・干芋・切り干し大根で楽しみ事は雑巾縫いと巻紙アートをおしゃべりしながら作業している。作品展へ展示した巻紙アート作品と雑巾アートは最高の楽しみ事もあり朝礼時の役割の発揮は圧巻である。	白板にその日の当番を記してる。掃除時・床拭き・モップ掛け畑での野菜作りは喜びと言える。嗜好品は干し柿・切り干し大根で楽しみ事は雑巾縫いと巻紙アートを作業している。作品展へ展示した巻紙アート作品と雑巾アート楽しみ事で朝礼時の役割の発揮は圧巻である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブやさくらんぼ狩りや桃の花見・1日行楽での食事や近所の人との会話は楽しみにしている。外出時の食事はカッパ寿司で食べる事が恒例となっている。月1回移動スーパーに来てもらい利用者がかごを持ち約500円位までの好きな物を選び購入している。お墓参りや同級会への参加支援もしている。	ドライブやさくらんぼ狩りや桃の花見・1日行楽での食事や近所の人との会話は楽しみにしている。外出時の食事はカッパ寿司で食べる事が恒例となっている。月1回移動スーパーに来てもらい利用者がかごを持ち約500円位までの好きな物を選び購入している。	日常的にテラスに出てベンチに座ったり、散歩をしたりと外気浴が十分出来ている。近隣の方達との会話の機会でもある。ドライブでフルーツ公園・梅の花見・ハーブ庭園等に外出の時は、回転寿司で食事をするのが通例で利用者の楽しみになっている。また、法人内の合同運動会や納涼会の参加は、法人のバスで送迎があり、他の事業所の方々との交流の機会になっている。	
50		○お金の所持や使うことへの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	食材の買い物に誘ったり、移動バン屋さんや地域の移動スーパーでの購入時に財布を渡し好きな買い物をしてもらう。その際、力のある人には計算もしてもらって釣銭を確認が出来るか傍らに寄り添い支援している。	食材の買い物に誘ったり、移動バン屋さんや地域の移動スーパーでの購入時に財布を渡し好きな買い物をしてもらう。その際、力のある人には計算もしてもらって釣銭を確認が出来るか傍らに寄り添い支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話したり希望があれば手伝ったりもする。めだか便り、年賀状、暑中見舞いに書きこんでもらい今の様子を伝える支援はしている。家族からの手紙やはがきは本人に手渡している。	本人が電話したり希望があれば手伝ったりもする。めだか便り、年賀状、暑中見舞いに書きこんでもらい今の様子を伝える支援はしている。家族からの手紙やはがきは本人に手渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を改造した室内は自宅での生活そのまま居間は畳を使用している。不快感や混乱が無いような自宅そのままである様に工夫している。居室には温度計を置き寒暖差に注意し、光を多く取り入れている。トイレにはプライバシーを尊重し間仕切りカーテンを使用。玄関や廊下等には季節感が感じれる工夫として花やハビリの作品・行事の写真を貼っている。	バリアフリー対応の為車椅子使用でも(玄関、廊下、居間、食堂、浴室、トイレ等)不快や混乱が無いように工夫し居室には温度計を置き寒暖に注意しホールは外の景色が見られるよう配置され光を多く取り入れている。玄関や廊下には季節感が感じれる工夫としてリハビリの作品や行事の写真が貼ってある。	ユニットⅠは、木造建築の特徴があり暖かみが感じられる。広い廊下兼縁側は日当たりが良く外の眺めも素晴らしい。居間には畳の上に椅子が置かれ利用者は朝礼から昼食までゆっくりお茶を飲んだり好きな本や短歌を読む等、思い思いに過ごしている。ユニットⅠ・Ⅱ共に玄関・廊下・壁面一杯に巻紙・雑巾アート・習字・絵手紙・行事写真が貼ってあり、来所した家族にも様子が分かるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごす居間にはソファ・座卓 廊下で日向ぼっこが出来るように椅子も置いてある。テラスにはテーブルと椅子が置いてあり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせている。台所で過ごすもいればそれぞれが自由である。	思い思いに過ごす居間にはソファ・座卓 廊下で日向ぼっこが出来るように椅子も置いてある。テラスにはテーブルと椅子が置いてあり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせている。台所で過ごすもいればそれぞれが自由である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し馴染みの家具や使い慣れたものを置いてある。特に自宅で使い慣れた布団はそのまま使用して居心地良く過ごせている。筆筒が置いてある。家族同士の関係が築かれ仲良し2人が同室で寝ている。部屋には本人が好む写真を貼っている。	家族と相談し馴染みの家具や使い慣れたものを置いてある。特に自宅で使い慣れた布団はそのまま使用して居心地良く過ごせている。板の間仕切りを開けると夫婦が入居できる一部屋となる。部屋には本人が好む写真を貼っている。	居室入り口に巻紙アートの表紙が飾ってありそれぞれの利用者の部屋が分かりやすくなっている。ベッド・エアコン・加湿器以外は使い慣れた家具や寝具を使用。室内の壁には写真や習字・作品などが飾ってあり、一人一人の好みの居室となっている。ユニットⅡは仕切りを開けると夫婦が入居できる造りに成っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活リハビリを中心に支援し「出来る事」「解かる事」を活かし掃除や洗濯物の干しやたむ事が安全に出来る高さに工夫している。特に台所仕事は、ほぼ全員の人が食器洗い・拭き・片付け等安全に出来る高さに工夫している。また使用できる包丁やピーラーを用意して安全に対して支援を心がけている。	生活リハビリを中心に支援し「出来る事」「解かる事」を活かし掃除や洗濯物の干しやたむ事が安全に出来る高さに工夫している。特に台所仕事は、ほぼ全員の人が食器洗い・拭き・片付け等安全に出来る高さに工夫している。また使用できる包丁やピーラーを用意して安全に対して支援を心がけている。		